

.....
本会記事
.....**5th International Conference on Powder Metallurgy in Asia 会議報告**

Asian Powder Metallurgy Association (APMA) は2010年に設立され、現在日本、韓国、台湾、中国、インド、タイの6か国、9団体が加盟しています。APMAの国際会議は2011年に初めて韓国の済州島で開催され、その後2年毎に中国、日本、台湾の順で開催されてきました。今回は、Powder Metallurgy Association of India (PMAI) の念願であったインドでの開催となり、2019年2月18日～21日にインドのプネー (Pune)、JW Marriott ホテルで開催されました。

日本からインドの首都デリーに入り、その後2時間のフライトでプネー国際空港に到着しました。西インドのマハラシュトラ州にあるプネーは、ムンバイから南東へ約200kmのところの位置し、ムンバイに次ぐ大都市です。プネーは、インドではリゾート地であると聞いていた私は、オーシャンビューを望めるような会場であるというイメージを勝手に抱いていましたが、到着した会場のMarriottホテル周辺は非常ににぎやかで、日本でいう渋谷のような街並みで、私のイメージは一蹴されました。気温は35.6℃と日本とは真逆の夏の暑さでしたが、蒸し暑さはなく、日陰は非常に快適でした。

第5回APMA国際会議は、18日の会議登録で始まり、登録デスクに赴くと、PMAI会長のGopinath氏が参加者一人一人を出迎えられ、歓待頂きました。その夜は主催者によるAPMA Dinnerがあり、インド舞踊が披露され、ふるまわれたインド料理とともに出席者を魅了しました。

翌19日朝から開会式が行われ、PMAI会長のGopinath氏の挨拶に続き、APMA Chu会長からアジアの粉末冶金の現状についての報告がありました。開会式に引き続き、6つのPlenary Keynoteが行われ、日本からは九州大学三浦秀士教授による「Development of Innovative Ti Alloy Compacts through MIM Processes」の講演がありました。また、今回のAPMA2019開催に至り大変尽力されたPMAI会長のGopinath氏に協会から感謝状が贈られ、参加者も拍手で感謝の意を表しました。今回、PMAIの会長がGopinath氏からAniket Gore氏に交代されることになりましたが、改めてGopinath氏の長年の尽力に敬意を表したいと思います。

20日から21日の午前にかけては一般のセッションが行われ、今回は6テーマで34のセッションがありました。発表件数はOral 138件、Poster 7件、内日本の発表はOral 6件でしたが、インドではPoster sessionはあまり行われていないということで、それが件数に顕著に表れています。21日午後からはPMAIの年会が行われ、全日程を終えました。20日の発表の最終ぐらいから同テーマのセッションが平行で行われたことが少し気になりましたが、概ね順調に行われました。展示会場もメイン会場の横に併設され、36社の展示があり、賑わいを見せていました。今回の参加者は450名超、日本からは約20名の参加がありました。

19日に行われたGala Dinnerでは、インドの古い神話の舞踊が4部に分けて行われた。初めに大筋の説明がありましたが、言葉はなくても舞踊と音楽で表現される物語に参加者は釘付けでした。

会期中の20日夕刻に第11回APMA理事会が開かれ、会議では、今回のAPMA2019の報告を含め各団体の活動状況の報告ならびに決算報告、予算案承認が行われました。次回APMA2021の開催は韓国、また次回アジア地域で開催される2024年のWorldPMは日本で開催されることが決まっていますが、詳細な会場、場所については各団体の意見を受けて、次回までに決定することとなりました。

粉末冶金関係の国際会議、WorldPM2020は、2020年6月末にカナダ、モントリオールで開催されます。会員各位には順次案内を差し上げますので、是非発表、参加をご検討下さい。

(井上 羊子)

